

〔代表者〕 人文科学研究科 1年 董 嘉 菁

連携先

水戸市民及び水戸国際交流センター

参加者

董 嘉菁 (大学院人文科学研究科 地域政策専攻 1年)

李 峰 (大学院人文科学研究科 地域政策専攻 3年)

馮 祥 (大学院人文科学研究科 地域政策専攻 1年)

于 龍江 (大学院理工学研究科 環境機能科学専攻 博士課程 3年)

陳 鉄生 (理学部 交換研究者 物理学コース)

張 梅花 (大学院人文科学研究科 コミュニケーションコース 2年)

丸山 夕貴 (人文学部 コミュニケーション学科 2年)

プロジェクトの実施概要

グローバル化の進行により、国際化が進んでいます。それは地域においても、同様のことが言え、少子高齢化による深刻な過疎化している地域にとっては、如何に地域交流や国際交流を深めることかが、地域に活性化を与えるキーポイントになると思います。

このプロジェクトに参加する動機としては、外国人留学生の立場として、より一層日本人の方々と交流を深めていきたいという意識と、地域参画プロジェクトを通じて、地域社会に貢献していきたいという強い気

持ちが重ね合ったものであります。

このプロジェクトの目的は、主に3つに分けられます。まず、一つ目は、食文化を含めた異文化の交流。二つ目は、茨城大学の留学生と日本人の学生及び、地域住民たちがお互いに、自国の言葉を教えあうことによる、外国語の習得。そして、三つ目は、リタイアしたお年寄りをメインにした地域住民たちと、一緒に活動をしたり、会話を交わしたりすることによって、世代間の地域交流です。

具体的な内容については、中国を体表する食べ物のギョーザを切り口として、食文化交流といった主題に沿って、このプロジェクトを進行していきたいと思います。流れとしては、以下ようになります。

- ①国際交流センターの責任者と交渉し、そこで教室や活動の場所としての部屋を借ります。
- ②本場の中国ギョーザの作り方を教えるため、「李厨房」というレストランのオーナーと話し合っ、協力してもらいます。
- ③公民館管理者と交渉し、チラシを作り、配ることを通して、興味をもち、或いは参加したい地域住民を募集します。
- ④大学のキャンパスの中に、チラシを配り、興味を持っている日本人の学生を募集します。
- ⑤ギョーザ講座を二回ほど開き、参加する地域住民や学生に作り方を教えます。その後、自分でも作れるようになったか、

またどこまで成長できるかを確かめます。

⑥最後には日中友好協会の方々や、地域住民の家族を招き、成果発表会を開きます。

⑦ヒアリングやアンケートの形で、満足度や意見、感想などを調査します。

⑧改良や改善するため、反省会を行います。

以上が学生地域参画プロジェクトについての参加動機、最終的目的及び、具体的な内容であります。前例があるとは言え、私たちにとっては初めての挑戦ですので、スタッフ全員一丸になって、目標達成を目指して、努力していきたいと思えます。

プロジェクトの成果報告

本プロジェクトの主旨としては、交流活動を通じて、日中両国が互い国に対する真の理解を深めることとあります。それに、地域に元気を与え、活性化することです。また中国人留学生を対象にして日本に触れる機会を創出することです。

交流活動は二回に渡って実施しました。少人数制なので、日本人の参加人数は二回を合わせて23名であったことに対して、留学生たちの参加意欲が高く、毎回15名ほどのぼりました。活動内容を簡単に紹介すると、手作りギョーザをただでおいしく食べてもらうではなく、一緒に皮から作って貰い、そして自分たち作った「成果」を食べる。そのプロセスの中で、会話を交わし、互い国の文化や習慣を交流しました。

さらに、真の理解を深めるという主旨に沿って、中国と日本の時事クイズゲームを

行いました。ゲームの中身は両国の政治、経済、社会に関する簡単な時事問題を出して、それに当てはまるということでありませぬ。結果はともかく、クイズをやることに通して、現在における両国の現状や基礎情報を水戸市民や新しい留学生たちに知って貰うのは目的でありました。結果から言うと、効果があり、目的を達成したと思えます。

それに、今回の交流活動は食べ物に関わるため、参加者により安心、安全なものを提供するためには、活動に使ったひき肉はすべて国産であり、また、地産地消や地元農業をサポートする意味で、使った野菜は全部茨城産でありました。LOHAS消費者として、責任を果たしたと思えます。

もちろん、良いことばかりではなく、不足していったこともありました。たとえば、事前調査不足の原因で、初回の11月7日に、水戸市内中小学校のオープンキャンパスと重なって家族連れが少なかったこと、また宣伝に力を結構入れた割に、効果があまりなかったことなどです。改善すべきところはたくさんありました。

交流活動に関する満足度調査は100%満足の結果を貰いました。また、今回のきっかけで水戸市商工会議所青年部の知り合いができ、水戸の企業経営者と留学生の親睦会は3月に予定されています。今回の経験を踏まえて、今後もっと、より質が高い企画をしたいと思えます。